

## 2 結果の概要と授業改善の方向

### (1) ペーパーテスト

基礎的・基本的な知識・技能について、全体的に平均正答率が高いものの、平均正答率が5割前後にとどまっている問題もあり、課題となる力がみられた。

また、たとえ平均正答率が高い問題ではあっても、どの子にも基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るという観点からみると、十分に定着していない児童生徒が一定割合いることが明らかになった。

どの子にも確実な定着を図りたい基礎的・基本的な知識・技能 :十分に身に付いている力 :課題となる力

国語	書く必要のある事柄を選択する力、課題に関する情報を正確に把握して整理する力、段落の関係を正しくとらえる力や漢字を正しく読む力など ローマ字で表記されたものを正しく読む力や、漢字を正しく書く力など
社会	地域の人々の諸活動、歴史上の人物の働きについての知識や、絵図や文書資料等を読み取る技能など 県内の主な市町村、主な地形などの名称と位置についての知識、「方位」、「等高線」「縮尺」等に注目して地図を活用する技能や、歴史の時代区分についての知識など
算数 数学	整数・小数の簡単な四則計算の技能、立体の見取図と展開図の関係の理解、折れ線グラフを正しくかく力、数量のかわり方を表にまとめる力など 兆までの数のしくみの理解、ひし形の対角線の性質の理解、反比例の関係にある具体的な事象の理解、最頻値の意味の理解など
理科	星座の動きに関する知識・理解や、気温を正しく測定する技能や月の記録を作成する技能など 気体の確認方法や発生方法に関する知識・理解や技能、条件に合った回路を図で表す技能、質量パーセント濃度を計算する技能、測定値を記録しグラフをかく技能など
英語	具体的な内容や概要・要点を正しく聞き取ったり読み取ったりする力など 英語による問いかけに適切に回答する力、読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力、伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力など

### 【どの子にも基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るための授業改善】

単元(単位時間)を通してどの子にも確実な定着を図りたい知識・技能を明確にした指導  
(例えば、上記に示した の内容についての指導)

- 知識・技能の内容を整理・分類する。  
「覚えることが必要な知識」  
「確実にできるようにする技能」  
「考える、伝え合う、書くこと等によって確かにする知識・技能」

**ポイント** ・ねらいに応じて、繰り返し練習するなど  
確実に身に付くまで教える指導と、「考える」「伝え合う」「書く」過程を大切にす指導とを区別する。

発達や学年の段階に応じた繰り返し学習の指導

- 繰り返すなかで「早くできるようになった」  
「正確にできるようになった」  
「新たな知識や技能が身に付いた」

**ポイント** ・知識・技能の定着にかかわる自己の伸びを自覚させる。

実感を持った理解を図る指導

- 「具体物を使った学習」  
「体験的、問題解決的な学習」  
「生活とのかかわりを大切にす実践的な学習」

**ポイント** ・活動の目的を明確にする。  
・心を揺さぶり体得させる。

個の実態に応じた系統的な指導

- 本単元(単位時間)の学習を支える知識・技能が十分に身に付いていないと思われる児童生徒に着目する。  
「導入時における復習の位置付け」  
「個のつまずきに応じた学習カードや学習環境(既習事項の掲示等)の工夫」  
「習熟度に応じた少人数指導など、学習形態の工夫」

**ポイント** ・学び直しができる工夫をする。

単元間や学年間、学校段階間の学びを円滑に接続させる指導

- 「単元間、学年間等で内容の一部を重複させる指導計画」  
「既習内容を復習したり、想起して比較・関連させたりする学習を位置付けた指導計画」

**ポイント** ・単元や学年、学校段階間をつなぐ指導計画を作成する。

課題となっていた「文章、資料、図表等を深く読み取る力」や「学んだことを活用しつつ、論理的に考察し、自分の考えを適切に表現する力」等、思考力、判断力、表現力については、各教科とも改善の成果がみられるが、今後も引き続き充実を図っていく必要がある。

今後、一層高めていく必要がある力)

国語	書こうとすることの中心を明確にしなが、考えと事実を分けて書く力など
社会	複数の資料から読み取ったことを基に自分の考えを記述する力など
算数 数学	計算の仕方や大小の比較の仕方などを筋道を立てて説明する力、数量の関係を読み取り方程式を立式する力、表やグラフに示された数量の関係から式を求める求め方を説明する力
理科	実際の生活でみられる事物・現象を学習した科学の原理でとらえたり、説明したりする力など
英語	尋ねたい内容について正しい語順で書く力など

【どの子にも思考力・判断力・表現力等を確実にばぐくんでいくための授業改善】

<p><b>言語活動の充実を図る指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の特質に応じた言語活動</li> <li>例 算数科、数学科「言葉や数、式、図、表、グラフを使って論理的に考え、根拠を明らかにして筋道立てて説明し、互いに自分の考えを伝え合う活動を重視」</li> </ul>	<p><b>ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力等の高まりを意図した適切な言語活動を位置付ける。</li> </ul>
---	--

## (2) 質問紙調査

<p><b>ア 自分自身や自分の行動に対する意識について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約74%の児童生徒が「自分にはよいところがある(そう思う・どちらかというと思う)」と回答している。</li> <li>約90%の児童生徒が「学校のきまりを守っている(守っている・どちらかという守っている)」と回答している。</li> </ul> <p><b>イ 学校、家庭、地域における生活について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約91%の児童、約85%の生徒が「朝食を毎日食べている」と回答している。平成19年度の調査より、その割合は増加している。</li> <li>「家の人といっしょに話をする」、「やってはいけないことをしてしまったときなどに注意される」児童生徒の割合は、80%を上回り前回調査より増加している。</li> </ul> <p><b>ウ 学習に対する意識について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約46%の児童生徒が「勉強は好き(好き・どちらかという好き)」と回答し、平成16年度の調査以降増加の傾向にある。</li> <li>約92%の児童生徒が「勉強は大切(そう思う・どちらかという思う)」、約73%の児童生徒が「自分から進んで勉強しようとする気持ちがある(ある・どちらかというある)」と回答している。前回調査と比べ微減している。</li> </ul> <p><b>エ 学校や家庭における学習習慣・学習姿勢について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭で、約50%の児童生徒が「予習をしている(している・どちらかといえばしている)」、約63%の児童生徒が「復習をしている(している・どちらかといえばしている)」「間違えた問題などを後で勉強している(している・どちらかといえばしている)」と回答している。</li> </ul> <p>-----</p> <p><b>意識調査とペーパーテストの結果との相関について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分で計画を立てて勉強をしている」「予習や復習をしている」など、学習習慣が身に付いている児童生徒ほど、正答率が高くなる傾向がみられる。</li> <li>「家の人といっしょに話をする」など、家族とのコミュニケーションを深めている児童生徒ほど、正答率が高くなる傾向がみられる。</li> </ul>
--

【どの子にも望ましい学習習慣を確立させ、学力の確実な向上を図るための授業改善】

<p><b>「将来の夢や希望がもてない」「規範意識が低い」「家庭の教育力が低下している」など配慮を要する児童生徒に対する指導を充実する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識や技能の確実な習得によって、自己存在感を高める。</li> <li>他者との比較ではなくその子のよさに着目し、互いに認め合い学び合う共感的な人間関係を築く。</li> <li>家庭学習の仕方などを自己決定させ、継続的に見届け援助することによって、自発性や自主性を高める。</li> </ul>	<p><b>ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己存在感をもたせること、共感的な人間関係を育成すること、自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助することを大切にする。</li> </ul>
--	--